

# 横内川遊水地における埋没林、縄文の谷跡の保存と活用

研究第一部 主任研究員 椎名 真悟



横内川遊水地は、青森市内に位置する面積62.5haの多目的遊水地である。遊水地は、昭和59年度に事業着手され、平成12年度までに遊水地内の掘削は完了しているが、遊水地南側において、約2万3千年前（A群：グイマツ、チョウセンゴヨウ等の針葉樹）約1万3千年前（B群：樹種はA群に近似）縄文時代（C群：ヤチダモ、ハンノキ等の広葉樹）の3群の大規模な埋没林及び縄文時代の谷跡が発見された。

そのため、遊水地の整備に当たり、これらの埋没林及び縄文の谷跡の保存、活用に配慮した河川公園の整備計画を、平成12、13年度の2ヶ年で検討した。

その整備計画において、埋没林の保存、活用については、地表面に現れていないものは、基本的に覆土保存（現地保存）を行うものとした。また、これまでの遊水地内の掘削に伴い露出した埋没林については、遊水地内に「埋没林広場」を整備し、そこに埋没林をそのまま展示するとともに、埋没林を構成する樹種の植樹、サイン等の設置により、埋没林の学習空間としての機能も持たせるものとした。なお、現地に展示するのは、針葉樹であるA群、B群の埋没林とした。これは、若干の劣化は否めないものの、針葉樹の埋没林は耐性が強く、基本的に無処理で展示しても問題ない

との判断からである。

縄文の谷跡については、草本類の繁茂等により、谷跡がほとんど認識できない状況になっているため、表面を掘削して谷跡を明確にするとともに、周囲に遊歩道を整備して谷跡の形を認識させるものとした。また、谷跡特有の湿地性の環境及びヤチダモ・ハンノキ等の潜在的な植生を活かし、周辺とは違う縄文当時の自然環境の復元を図ることとした。

このような取り組みにより、横内川遊水地では、人々が地域の歴史を体感できる河川空間の創出が進められている。



南方からみた横内川遊水地全景（平成10年青森県撮影）  
中央の黒い部分が縄文の谷跡

# 宮川水辺空間再生構想 ～水を軸としたまちづくり～

岐阜分室 主任研究員 大塚 正



宮川は、岐阜県高山市の中心部を流れ、古い町並みが残る川沿いでは、昔ながらの朝市や高山祭りなどの行事や文化が引き継がれ、日本でも一番早い時期に町並み保存運動がされ、市民活動が盛んである。しかし、近年の不況とも重なり、観光客の伸びが衰えており、水を軸としたまちづくりにむけ、まちの再生が必要となった。

このため、市民団体の提案を機に、学識経験者や市民活動団体や行政機関等の代表者により、検討委員会を組織し、高山市街地を中心とした「宮川水辺空間再生基本構想」を策定した。そのテーマを、“山都の歴史と文化を支える清流宮川の保全と再生”とし、基本理念を以下のとおりとした。

- 歴史と文化を育む水辺空間の継承
- 自然環境の回復
- 水辺空間を楽しむ
- 清流宮川の復活
- 安心・安全な水辺をつくる
- 上下流との連携・交流

策定した区間6 kmについて、3つにゾーニングし、右図のように整備メニューを具体的に示した。

本構想は、市民の代表者の意見を反映させ、宮川の望ましい姿を共通の認識がもてるようにわかりやすく作成した。

この構想をもとに、水を軸としたまちづくりの視点から宮川とまちづくりが一体とした河川整備計画の策定に向け、市民による具体的な提案作りが進められている。



最下流部の親水整備ゾーンのイメージ図